

人がつながる「地域と共にある学校づくり」研修講座 実施報告

《日 時》 令和元年7月29日(月) 13:00~16:00

《会 場》 奈良県産業会館 大ホール・展示ホール

《参加者》 県内公立幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職員、地域コーディネーター、市町村教委担当者、団体・企業等 計 482名

《内 容》

◆説明「地域と共にある学校づくり」について

奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 指導主事 吉村 俊朗



◆実践発表「4つのプロジェクト進行中!~地域で社会力を高めよう!~」

天理市立櫛本小学校 教頭 長谷川 芳彦 主査 井田 康晴
主事 澤井 陽(現在 奈良市立青和小学校主事) 地域コーディネーター 森田 祐司

- ・ コーディネーターや地域の人が子どもを思うつぶやきから始まった「みんなのとしよかんプロジェクト」、自分から学習の習慣をつける「町力塾プロジェクト」、子どもの未来を地域と学校が応援する「夢応援プロジェクト」、そして地域の子どもらが互いの交流を深める「夢みまもりプロジェクト」。これら4つの魅力的な実践発表をしていただきました。

◆講評 天理大学 准教授 佐々木 保孝

- ・ プロジェクトの経緯がよく分かった。必ず核となる地域のキーパーソンの方がいるので、その方とうまく連携を図り、その方がいなくなっても機能するよう、組織として盛り上げていくプロセスがよく見えた。地域にはこのような活動に様々な事情で現状は参加できない方が潜在的にいると思うが、そんな地域人材を掘り起こし参加の流れに乗せていくことがコーディネーター、社会教育関係者、学校管理職、連携担当教職員の大事な役割である。
- ・ 「この学校でどういう子どもを育てていくのか」「どういうビジョンで動いていくのか」について、「チーム学校」を前提に、まず全体のビジョンの把握が必要である。その中で「自分が何かをやる」というよりは、「他の人がどういうことをやっていて、そのビジョンのどういった部分を得意としてそのカバーをしているのか」について知っていくことも1つの方法である。それにより、「自分だったら…」がだんだん見え、持ち場をしっかりと見定める第1歩になる。
- ・ 地域が自主的にいろいろなことを行うということは、学校を足場にしながらもう1つの違う教育活動をする教育体ができあがるということである。そこに一員として若い先生方が入っていけば「地域と共にある学校づくり」がしっかり育ち、コミュニティ・スクールとしてそのような状態をより深めていくことが、いま求められている「社会に開かれた教育課程」で目指す核の部分である。



◆「ならの教育応援隊」ブース展示及びアピールタイム

団体や企業等による学校や地域における教育活動を支援する「ならの教育応援隊」のメニューを紹介。展示ホールにおいては、団体・企業等が教育分野における社会貢献事業の一環として行う出前授業や見学等の活動を各ブースで紹介し、大ホールにおいては、アピールタイムとして団体・企業等が上記の出前授業や見学等について紹介を行った。



三光丸・日本自動車連盟・大塚製薬・井上天極堂・NTTドコモ・セブンイレブンジャパン・レオパレス21・関西電力・近畿日本ツーリスト・近畿日本鉄道・KDDI・奈良県測量設計業協会・国立曽爾青少年自然の家・市民生活協同組合ならコープ・奈良県社会福祉協議会・JICA関西・ALSOK・近畿総合通信局・第一生命保険・奈良県高等学校生徒会連絡会・奈良県租税教育推進連絡協議会・奈良弁護士会・奈良ヤクルト販売・日本マクドナルドフランチャイジーアンビシャス・毎日新聞社・奈良県立大学以上、26団体65名の方の協力

《参加者の感想》

- ・ 児童の作文を聞き、子どもたちの中に、地域と自分というものがはっきりと意識されているのだと感じた。(実践発表から)
- ・ 「学校は地域の宝」という校長先生の理念が具現化されているところに、やればできるという思いを強くした。(実践発表から)
- ・ 同じ目標に向かって進んでいけるよう、学校または地域の課題を共有すべきだと思いました。(実践発表から)
- ・ 出前授業や工場見学などの情報や専門的な知識を教えていただく機会となり、大変有意義な研修でした。(ブース展示から)
- ・ 各団体のアピールタイムがあったので、展示について内容がわかりやすかった。(ブース展示から)

子どもの教育課題解決のために、学校・家庭・地域が参画・協働する取り組みを推進するための知識・理解が深まった。

【一般参加者】

【中堅教諭等】

